

画像

1. 概要.....	2
1-1. オブジェクト概要.....	2
1-2. 倍率で指定.....	2
1-3. 領域に合わせる.....	3
1-4. 表示位置.....	4
1-5. イメージ間隔.....	4
1-6. 対応画像フォーマット.....	5
2. 固定イメージオブジェクト.....	6
3. イメージ変数オブジェクト.....	7
3-1. 入力データ.....	7

1. 概要

1-1. オブジェクト概要

Create!Formでは画像ファイルを参照して帳票上に固定もしくは動的に画像データを描画することができます。

画像描画のためのオブジェクトとしては以下のものが用意されています。

- ・ 固定イメージオブジェクト
- ・ イメージ変数オブジェクト

オブジェクトのプロパティ画面で画像の描画方法や配置を指定することができます。

図：プロパティ



1-2. 倍率で指定

画像の表示サイズを倍率を指定して出力できます。X倍率：Y倍率 共に“1.000”に設定すると元々の画像サイズで表示できます。(初期設定)

[縦横比を固定]した場合は、X倍率のみの設定となり、元画像の縦と横の比率を保持したまま画像サイズを拡大・縮小します。

1-3. 領域に合わせる

Formエディタ上で定義した固定イメージ・イメージ変数の定義領域の幅・高さを基準に画像サイズを拡大・縮小します。
各設定による出力は次の図のようになります。

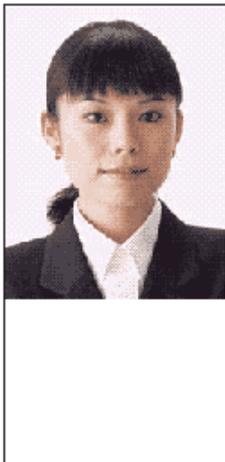
図：「領域に合わせる」

実寸



設定：イメージ変数、領域にあわせる

縦横比を固定した拡大



縦横比を固定しない拡大

 : 定義領域を示す

縦横比を固定した拡大



縦横比を固定しない拡大



1-4. 表示位置

Formエディタ上で定義した固定イメージ・イメージ変数の定義領域のどこを基準に画像を表示するかを選択します。

設定は、[左上][左下][右上][右下][中央]となります。

1-5. イメージ間隔

イメージ変数では、1つのイメージ変数に対して、複数行の画像ファイル名をマッピングすることにより、製品カタログなど、連続して画像を切り替えて表示していく表現が可能となります。

この際、1つ1つの画像の送り（行送り）はイメージ変数の定義領域のサイズが基準となっています。これに対し、イメージ間隔を指定することにより、次の画像の出力位置をずらすことが可能です。

図：イメージ間隔



} イメージ間隔



} イメージ間隔



1-6. 対応画像フォーマット

イメージ・イメージ変数で出力可能な画像ファイルフォーマットは、以下のとおりです。

- ・BMP ファイル

色数：

- 1 ビット モノクロ

- 8 ビット 256 色 RGB インデックスカラー

- 24 ビット RGB フルカラー

圧縮： 非圧縮

- ・TIFF ファイル

色数：

- 1 ビット モノクロ

- 4 ビット 16 色 RGB インデックスカラー、グレースケール

- 8 ビット 256 色 RGB インデックスカラー、グレースケール

- 24 ビット RGB フルカラー

圧縮： 非圧縮、FAX G3、FAX G4、PackBits、LZW

- ・JPEG ファイル

色数： 24 ビット RGB フルカラー

符号化方式： ベースライン

- ・EPS ファイル (FormPrint ランタイムのみ)

Adobe Illustrator バージョン7 以上

2. 固定イメージオブジェクト

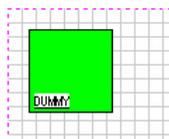
固定イメージオブジェクトは、固定の画像を帳票上に描画するオブジェクトです。
固定イメージオブジェクトを帳票上に配置すると、全てのページに固定イメージオブジェクトが出力されます。

Formエディタ画面上で固定イメージオブジェクトを帳票上に定義する場合は、オブジェクトツールバーにある[イメージ]アイコンをクリックし、帳票領域上にドラッグ&ドロップして配置します。

図：[イメージ]アイコン



図：固定イメージオブジェクト



表示する画像はプロパティ画面の[属性]タブの[イメージファイル名]欄で指定します。

図：プロパティ



[参照] ボタンをクリックして画像ファイルを選択してください。画像ファイルはFormファイルと同じディレクトリに配置する必要があります。

図：固定イメージオブジェクト



3. イメージ変数オブジェクト

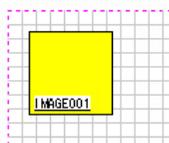
イメージ変数オブジェクトは、入力データから取得した画像ファイルのパスを元に可変的に画像データを帳票上に描画するオブジェクトです。

Formエディタ画面上でイメージ変数オブジェクトを帳票上に定義する場合は、オブジェクトツールバーにある「イメージ変数」アイコンをクリックし、帳票領域上にドラッグ&ドロップして配置します。

図：「イメージ変数」アイコン



図：イメージ変数オブジェクト



3-1. 入力データ

イメージ変数オブジェクトにマッピングしたデータには、画像ファイルのパスを記述します。絶対パス、もしくは実行時のカレントディレクトリからの相対パスで指定することが可能です。